

の支配に入ることゝなつたが、尙一通りの跡目相續のものは父祖の組に居ることも出来た。

クミハツレナミ 組外並 其の初は不明であるが、正徳四年七月十八日齋藤安右衛門が召出され、知行百五十石を賜はり、組外並に仰付けられた。又享保八年三月八日二代松尾縫殿も江戸にて此の並に召出され、新知二百石を賜はり、御側小將に命ぜられたことがあり、以後多くその例がある。すべて組入を命ぜられず、假令所屬の頭が極つても當分支配なるものをいふ。

クミハツレバシガシラ 組外番頭 組外の士には組頭がなく、番頭を以てその長とした。しかし初は組外裁許又は組外頭といふのがあつて組を支配してゐた。其の起原は明らかでないが、大坂役に多賀出雲の組外頭であることが見え、夫より寛永に至つて暫く見えなない。正保年間に青地四郎左衛門・黒坂吉左衛門・山本久左衛門が裁許を勤め、御歩支配を兼帯した。明暦二年に及んでは青地・山本兩人となり、寛治二年前田木工助・富田治部左衛門重持が命ぜられ、寛文元年に至つて不破彦三爲貞と富田重持兩人で勤め、中川采女等の三名は別に御歩支配を命ぜられて、組外裁許から兼帯することを罷めた。其の後組外は寺社奉行の支配に屬するものが恒例となり、天和三年二月二十一日初めてその下に近藤四郎右衛門直恒・木梨助三郎政直二人に役料百石充を賜はつて、組外御番頭と稱せしめられた。同年八月前出瀬兵衛正重、十一月四日吉田逸角守紹も亦命ぜられて四名となつたが、吉田は元祿六年に死亡し、近藤は九年に免ぜ

られたから、十年四月七日高田久兵衛種徳・野村勘兵衛重威・關屋市右衛門政知・武藤判右衛門元安・里見勘助元辰・駒井庄太夫守政に仰付けられ、外に木梨政直・前田正重を加へて八人となり、役料は百五十石に改め、又此の時組外を四組に定め、一組に番頭二人とした。即ち一番野村重威・前田正重、二番高田種徳・關屋政知、三番木梨政直・里見元辰、四番武藤元安・駒井守政であつた。十四年正月二日當役番頭を同時に改めて命ぜられ、番頭は組頭同様との命があり、寺社奉行の支配を離れて全く後代の組織となり、以後連續した。

クミマンゾウ 組萬難 ↓マンゾウ 萬難。クモダチユウダユウ 雲田忠太夫 ↓コンドウチユウノジヨウ 近藤忠之丞。クモツ 雲津 ↓モツ 雲津。クラ 久羅 白山山中で岩石の高く積重つてゐるところを稱して久羅といふことがある。その土を載せたるを土久羅といひ、柏樹の叢生するを柏久羅といふの類も皆それに同じい。

クラアブミノキ 鞍轡之記 一册。前田綱紀が鞍轡の濫觴を藩士伊勢貞意に尋ねたので、家傳を記して上つたものである。奥書に、『右之趣依貴命、伊勢家之雖爲秘事、奉調獻之候。仍如件。元祿四年六月十一日伊勢監物貞意』とある。クラガキ 倉垣 羽咋郡加茂庄に屬する部落。クラガキガハ 倉垣川 羽咋郡安津見領親右衛門谷・土谷及び倉垣領おたにから出で、大坂領で於古川に入る。流程六許許。クラカケヤマ 鞍掛山 江沼郡の中にあつ

て、山麓塔尾と瀧原に跨つて居る。一に舟見岳といふは、海上漁舟の目標とするに因る。高さ四七八米。地質石英粗面岩。

クラガダケ 倉ヶ嶽 石川郡富樫庄に屬する部落。鞍ヶ嶽の山下に在るが、部落と山地とは古來郷庄を異にした。邑名は附近に鞍ヶ嶽があるから起り、寛文十年の村御印にも倉ヶ嶽村と記され、後には倉ヶ嶽と書いた。俗に鞍村と稱することもある。

クラガダケ 鞍ヶ嶽 石川郡林郷知氣寺の領に屬する山。山狀馬鞍を置く如くなる故に名づける。高さ五六六米。地質石英粗面岩。山上に二つの池があり。大池は長さ四〇〇米許、幅最狭六〇米許で、本丸と稱する絶壁の麓に在る。小池は二、九といふ所にあつて、徑僅かに六米許である。小池の登り口左右に古木各一株あつて、そこを大門前というて居る。俗傳にこの山を富樫政親滅亡の所とする。越登烈三州志に曰く、政親高尾に在つては全く利なきを思ひ、密に妻孥を越中に送り遣はした後、鞍ヶ嶽に築城して能越の援を待ち、夜を待つて出入した。然るに河合藤左衛門は之を知つて、洲崎泉入道を大將とし、搦手より急に攻めたから、城兵守るに堪へず出で、突撃した。しかし攻衆強勢で城に乘入つたが、その時政親は水巻新介忠家と馬上に支拂し、郭内の池中に墮ちて死んだと。又いふ。土人の口碑に、この池中へ政親と水巻新介と戦ひ、馬と共に墮死した故、今も天晴れる時は鞍形水底に隠見すると。これらは鞍ヶ嶽の地名に關する説明に過ぎず、政親の滅亡したのは高尾山である。又北陸七國志に天正八年閏三月柴田勝家の軍の討入つた際鞍ヶ嶽、劍以

下敷所の要害を攻落したとあるから、此の頃鞍ヶ嶽は一揆の據つた所で、地方人が新庄村の杉谷四郎左衛門が居たといふのも、その事であるかも知れぬ。

クラガダケキンコウ 鞍ヶ嶽金坑 慶長三年に着目せられ、前田利家はその年十月五日附の書狀を以て、高島定吉に命じて試掘せしめた。然るに利家は四年閏三月に薨じ、利長の時に及び成功の望なくして止んだ。

クラカハキヨフサ 鞍川清房 初め平兵衛、後肥前と稱し、越中の侍である。射水郡鞍川村に住したのであらう。天文十二年遊佐續光に傾心して、十一月廿四日鹿島郡天神河原に着陣したが、續光と共に畠山義續の臣温井景隆・長續連に追はれ、廿五日石塚邊なる二丁宮で温井の巨山莊監物に討取られたといふ。併し是は長氏家傳の記事で、必ずしも信じ難い。クラガヘシマイ 藏返米 知行を有する者の當然收納すべき米銀が、或理由により百姓より直接受取るを得ざる場合に、藩の藏米にて償はれるものを御藏返米というた。例へば不作の年に於ける收納の不足、又は年末に御一行を受けたる者の收納すべき秋夫銀の如きは是である。又土人の死後、その子が何かの事情により数年を経て襲祿を命ぜられた場合には、その間の祿額を計算して一時に米穀を以て支給せられることがある。その場合に於いても之を御藏返米というた。クラサキ 鞍崎 珠洲郡片岩の部落東方にある岬。寶曆十四年の調書に、『片岩村領くら崎、片岩村より道程十二町程。先年は集果致候へ共、唯今は集不仕。』とある。